



2022年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社ヤマノホールディングス
代表者名 代表取締役社長 山野 義友
(コード番号7571 東証スタンダード)
問合せ先 取締役専務執行役員
管理本部長 岡田 充弘
電話番号 03-3376-7878

2022年3月期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2021年5月14日に公表しました2022年3月期の連結業績予想と実績値との間に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

また当社は個別業績予想を開示しておりませんが、当社の個別決算における当事業年度の実績値が前事業年度の実績値から一定以上変動しましたのであわせてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想との差異について

(1) 2022年3月期連結業績予想と実績値との差異 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 14,000	百万円 230	百万円 200	百万円 100	円 銭 2.87
実 績(B)	13,175	281	265	101	2.91
増減額 (B - A)	△824	51	65	1	—
増減率 (%)	△5.9	22.4	32.6	1.8	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	12,701	331	325	△324	△9.68

(2) 差異の理由

当連結会計年度の業績につきましては、本日公表の「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおり、売上高は、2019年11月に譲り受けた「かのこ」や2020年3月に子会社化した株式会社マンツーマンアカデミーの業績が順調に推移し、また店舗休業や時短営業が前期から大幅に減少したこともあり概ね回復傾向で推移しておりましたが、2022年1月以降の新たな変異株による感染再拡大により消費マインドが再び後退するなどの影響があり、前期比では増収とはなったものの、当初の予想は下回る結果となりました。

利益面では、第4四半期での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令による減収影響はありましたが、全社的に販促施策の見直しや一般管理費の削減に努めたことにより、予想を上回る結果となりました。

2. 個別業績の前期実績値との差異について

(1) 2022年3月期通期個別業績の前期実績値との差異(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期(2021年3月期) 実績(A)	百万円 8,005	百万円 272	百万円 241	百万円 △396	円 銭 △11.81
当期(2022年3月期) 実績(B)	8,409	217	250	109	3.15
増減額(B-A)	404	△55	9	505	—
増減率 (%)	5.0	△20.2	3.8	—	—

(2) 差異の理由

売上高は、お客さまと従業員の安心・安全を最優先とした環境整備を行いながら、コロナ感染状況や消費動向の変化に応じた事業運営に努め、概ね回復傾向となりました。利益面では、増収による売上総利益の増加影響のほか、管理運営コスト削減の取り組み等がありましたが、店舗休業・時短営業期間の固定費の特別損失への振り替えが前期に比べて大幅に減少したことにより、営業利益は前期実績を下回り、経常利益は子会社からの配当金の受取があり、ほぼ前期並みとなりました。

当期純利益につきましては、増収による影響や管理運営コスト削減の取り組みに加え、新型コロナウイルス感染症による損失及び減損損失が減少したことや、前期に計上した関係会社株式評価損を当期は計上していないこと等があり、大きく改善いたしました。

以 上